《学会ニュース》

昭和61年度通常総会開かる

昭和61年度通常総会は，さる4月30日に開かれ，名誉会員の推薦，OR学会賞の授与，フェローの紹介が行なわれました．以下に総会の議事録と事業報告，収支決算報告，事業計画，予算をお知らせします．

昭和61年度通常総会議事録

1. 日　時　昭和61年4月30日(水)　15:00～17:00

2. 場　所　弥生会館(東京都文京区根津2―1―4)

3. 出席者　近藤次郎他 808名(内委任状による出席753名)

ただし，会員総数 2,118名(1/3は706名)

4. 議事の経過および結果

上記のとおり出席者が定数に達したので，定款第28条により近藤会長が議長となり，議事録署名人に柳井浩，伏見正則の両氏を選出して議事に入った．

[第1号議案　昭和60年度事業報告の件]

柳澤理事より別紙昭和60年度事業報告書に基づき説明があり承認された．

[第2号議案　昭和60年度決算報告の件]

森下理事より別紙昭和60年度決算報告書に基づき説明があり，この報告に関し島田監事より監査報告がなされ承認された．

[第3号議案　昭和61年度事業計画の件]

梅沢理事より別紙昭和61年度事業計画案について説明があり原案どおり承認された．

[第4号議案　昭和61年度予算案の件]

森下理事より別紙昭和61年度予算案について説明があり原案どおり承認された．

[第5号議案　昭和61年度および62年度役員選任の件]

定款第15条に従い，昭和61年度および62年度役員候補者が別紙のとおり発表され満場一致で選任された．

[第6号議案　昭和61年度および62年度評議員選任の件]

定款第19条に従い，昭和61年度および62年度評議員候補者が別紙のとおり発表され，満場一致で選任された．

以上で議案の審議を終了し，議長は閉会を宣した．

上記議決を明確にするため，この議事録を作成し，議事録署名人はここに記名押印する．

昭和61年4月30日

社団法人　日本オペレーションズ・リサーチ学会

昭和61年度通常総会

議　　長　近藤　次郎

議事録署名人　柳井　浩

伏見　正則

総会終了後，日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞，普及賞，事例研究奨励賞の各受賞者の表彰ならびにフェローの紹介が行なわれた．

伊理表彰委員長ならびに阿部文献賞選考小委員長より選考経過の説明があり，会長より第14回日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞が川島幸之助氏に，第11回日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞が松田武彦氏に，第6回事例研究奨励賞が野村淳二，吉田幸男，栗尾孝，竹中清介，西川禕一の各氏および勝村正鷹，田中快吉，森文彦，佐藤敬の各氏にそれぞれ授与された．さらに日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞（第1回ソフトウエア部門賞）の選考経過の説明が佐久間表彰委員よりあり，同賞が会長より古林隆，林亜夫の両氏にそれぞれ授与された．

引続き，新フェローとして奥野忠一，尾崎俊治，佐久間孝，丸山賢三郎，森村英典，八巻直躬の各氏が紹介され，会長よりフェロー記が贈呈された（丸山，八巻両氏は欠席）．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

昭和60年度事業報告

I 事業の状況

1. 研究発表会

(1) 5月15日，16日の両日，九州電気ビルにおいて，第57回研究発表会を開催し，5月17日には，ブリヂストンタイヤ鳥栖工場を見学した．

特別テーマ　情報システムとOR

特別講演

1) 宇宙開発の現状と将来について
黒田泰弘（九州産業大学）

2) 問題解決型手法AHPとその応用
刀根　薫（埼玉大学）

3) 高度情報化社会について
中野　学（西日本新聞社）

発表件数　105件

特別テーマ／一般発表　96件（ペーパー・フェア1件）

部会報告　9件（ペーパー・フェア）

参加者数　309名

(2) 10月2日，3日の両日，東京工業大学において第58回研究発表会を開催し，10月4日には日本電気我孫子工場，㈱電力中央研究所我孫子事業所を見学した．

特別講演

1) OR実施理論研究の基本方向
松田武彦（東京工業大学）

2) 情報通信ネットワークの現状と今後の課題
高月敏晴（野村コンピュータシステム）

発表件数 96件，招待発表 4件，一般発表 83件，部会，グループ報告 9件（ペーパー・フェア），マイコンソフトショー 9件，参加者数 341名

2. シンポジウム

(1) 10月1日東京工業大学において，第13回シンポジウム「研究の管理運営と産官学連携問題」を開催した．参加者は70名であった．

3. 研究部会

研究部会・研究グループ終了・中間報告　⊙印 終了報告　＊印 研究グループ　☆印 常設部会

部会名	主査 幹事	メンバー	開催回数	内容	場所
⊙数理計画法（九州）	古川長太（九州大学） 岩本誠一（九州大学）	31名	7回	本年度をもって終了するが，過去3年間にわたって計18回の研究集会を開催し，九州地区の数理計画法の普及に貢献してきた．最終年度においてとりあげられた研究テーマは，平均コスト基準のマルコフ決定過程，ファジィ数理計画，非線形計画における2次最適性条件，動的計画における反転定理，Max 型関数の最小化アルゴリズム等である．	九州大学理学部数学教室
⊙意思決定のための会計情報	伏見多美雄（慶応義塾大学） 山口俊和（東京理科大学）	16名	8回	経営意思決定に役立つ会計情報という観点から3つの柱を立てて研究を進めてきた．つまり (1)意思決定のための経済分析と伝統的な会計情報とのギャップをうめていく，(2)経営の戦略計画をサポートする会計，財務情報モデルの開発，(3)コンピュータのパーソナル化に対応したディシジョン・サポート・システムの検討の3つである．第3年度にも，これら各分野について会員諸氏から活発な研究報告がなされた．	慶応義塾大学ビジネススクール会議室
⊙離散システム	富沢信明（新潟大学） 藤重悟（筑波大学）	13名	6回	主に組合せ論の最新の話題をとりあげ，発表時間を1人3時間とし，内容のより深い理解を得ることに重点をおいた．とりあげられた話題は，マトロイドとその抽象概念，新LPアルゴリズム幾何的アルゴリズム，有向マト	東京工業大学情報科学会議室

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

部会名	主査 幹事	メンバー	開催回数	内容	場所
				ロイドと最適化，組合せ論と大規模数値計算，ネットワークフロー問題等である．研究の成果は，第15回シンポジウム「離散システムとその応用」で発表された．	
⊙*DP	小田中 敏男 (都立科学技術大学) 蔵野 正美 (千葉大学)	15名	8回	R. Bellman 以後におけるDPの将来の方向をさぐった．すなわちDPの過去，未来を通覧して，その発展の方向を検討し，これをもとにOR誌 (Vol. 30. No. 5) に動的計画法の特集をした．また第1回Bellman Continuumがミシガン大学において開催され，グループの一員でもある岩本誠一氏が出席発表した．	日科技連
☆待ち行列	橋田 温 (NTT) 川島 幸之助 (NTT)	45名	11回	通信網，計算機，運輸交通，設備貯蔵などの確率システムに対する待ち行列手法の応用と待ち行列理論の研究・整理・体系化を行なった．例会では (1)研究成果の発表と討論による内容の深化，(2)来日中の海外研究者の発表と交流，を図った．	東京工業大学理学部
☆数理計画	田辺 國士 (統計数理研究所) 鈴木 敦夫 (東京大学)	96名	10回	毎回2名が報告し，1名は手法，他方は応用中心という方針．来日中の海外研究者や近隣学会での面白い話題も随時はさんでいる．最近は，春秋の学会発表ではあまり見かけない若い人の参加が目だつ．今年の目玉は，やはりKarmarkar法に代表されるLPの新解法で，関連話題のときは立ち見(聞？)が出るほどのにぎわいとなる．	統計数理研究所セミナー室
☆OR/MSとシステムマネジメント	山田 善靖 (産業能率大学) 太田 敏澄 (豊橋技術科学大学)	59名	10回	技術的妥当性ないし最適化だけでなく組織的妥当性をもそなえたOR/MS/IS (情報システム) 組織に導入，定着させ，それを契機として組織革新を実現するための組織科学的理論・方策論・歴史を併せて考える学問領域の体系化をめざしている．	東京工業大学長津田キャンパスGIII棟
システム最適化	田畑 吉雄 (大阪大学) 石井 博昭 (大阪大学)	42名	5回	従来の数理計画法にとどまらず，もっと広くシステム最適化全般についての情報交換，研究発表を行なっている．特に昭和60年度はAHPなどタイムリーな話題が多かった．	帝人オール，大阪大学工学部
決定モデルとその応用	坂口 実 (大阪大学) 吉田 稔 (大阪大学)	27名	8回	統計的決定理論，ゲームの理論の基礎理論とその応用に興味をもつ学会員の研究発表，交流の場で，その構成メンバーは広く統計学，経済学現場のOR応用者および応用数学の各分野にまたがっている．	大阪大学基礎工学部
政策科学	末内 潔 (中部大学) 片山 隆仁 (防衛庁)	28名	12回	総合科学的取扱いを指向して展開されている「政策科学」の考え方，および方法を意思決定の場に活かすことを目的とし，文献・資料研究とともに，現実の社会の動き，情報・意思決定の実際等について研究討論している．	三菱総合研究所会議室

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

部会名	主査 幹事	メンバー	開催回数	内容	場所
交通問題	矢部　眞 (工学院大学) 八戸英夫 (工学院大学)	17名	12回	わが国の経済ならびに国民生活の根本ともいうべき交通問題について，ハード（交通網・車両技術など）・ソフト(交通政策・情報サービスなど）の両面から研究を行なった．本年度は,国鉄の分割・民営問題を主に取扱った．	東洋経済新報社ビル
政策科学(関西)	小笠原　暁 (芦屋大学) 竹田英二 (神戸商科大学)	64名	9回	前年度合計9回の例会の成果をふまえ，今年度も産学官の知識を結集し政策科学のパラダイムを求め,広く学会内外から講演を依頼し,同時に政策科学に関する文献あるいは事例を紹介しあい会員相互の情報交換，学術交流の場とする．今年度の重点テーマは戦略意思決定・公共意思決定のためのディシジョン・サポート・システムである．	芦屋大学福山記念館
地域政策	安田八十五 (筑波大学) 忍田和良 (日通総合研究所)	22名	6回	地域政策へのシステム・アプローチの体系化を主たる目的として60年度に新設された．このテーマのもとにほぼ隔月定例研究会を開催した．61年度は首都圏の将来像の総合システム的研究を事例研究として実施する計画である．	日通総合研究所
確率モデルとその応用	沢木勝茂 (南山大学) 岸　善徳 (愛知学院大学)	15名	9回	ORの現場におけるいろいろな確率モデルはLPとか，ゲーム理論などのカテゴリーが単一の形で現われるとはかぎらない．ここではとりあげたモデルを様々なORの分野の者がそれぞれの立場で一緒に討論していく場を提供する．	名古屋工業大学生産システム科
トップ業務の創造的エキスパート・システム	三重野博司 (東京理科大学) 吉村晶一 (アンリツK.K.)	21名	9回	経営業務の中でトップみずから expertsystem を作動させる事を目的とし，特に人事異動の expertsystem について研究を行なった．後半はモデル会社での人事異動のあり方を検討し，①単身赴任周辺を問題とする人事異動のあり方，②それにもとづく様相述語論理による論理構成について研究した．	アンリツ株式会社
新社会システム	加地郁夫 (北海道大学) 大内　東 (北海道大学)	15名	9回	近年，コンピュータやニューメディアの導入により，日常社会のシステムが大きく変わりつつある．このような新社会システムと地域(特に北海道)関連の中で，システムの計画・設計・運用面のOR的諸問題を研究している．	北海道大学工学部
社会経済分析	小島光造 (小野技術研究所) 雨宮幸雄 (東京計算サービス)	15名	6回	日本における社会システムと経済活動は不可分の関係にあるとの認識の下に社会システムを構成する日本人のエトスから21世紀へ向けての社会動向まで広範な研究をしている．	東京都勤労福祉会館
*日本的システム科学	上田亀之助 (上田イノベーション研究所) 樋爪　徹 (山之内製薬)	28名	11回	日本という文化共同体の中における社会的有機統一体である個人，企業，社会等についてシステム科学的に考察する．その日本的特質をどのように活用しながら科学すべきかを研究する．	東京都勤労福祉会館

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

部会名	主査 幹事	メンバー	開催回数	内容	場所
*第三世界とマイコン	森口繁一 (東京電機大学) 森村英典 (東京工業大学) 小田部斉 (共栄工業)	17名	11回	第3世界の経済発展の離陸をうながし，地球規模での繁栄を求めようという政策の具体化のために，マイクロ電子技術などの先端技術の技術移転を含む援助のおよぼす効果をOR的に評価し，発展のシナリオを画くことを目標に幅広い研究を進めている.	東亜燃料工業本社 (61年1月まで) 東京工業大学 (61年2月より)

4. 普及活動

(1) 定例講演会

開催年月	テーマ	講師	参加人数	開催地区
60年4月	東陶機器㈱の物流の概要について	大石光治	21名	九州
〃 6月	① 地理的情報の処理と都市・地域解析 ② 地理的情報の実際	腰塚武志 四方野英彦	15名	中部
〃 11月	経営戦略における AI（人工知能）の利用	小林重信 辻正重	43名	本部
〃 12月	地方自治とOR	小笠原暁	13名	本部

(2) 特別講演会

テーマ　大型整数計画問題の実用的解決について——PIPEX コードを中心に——

Dr. Ellis L. Johnson 氏 (IBM)

日時　11月11日～13日　10:00～16:00

場所　日本アイビーエムサイエンスインスティテュート

参加者人数　28名

(3) モニター制度

昭和55年度より発足したモニター制度は，OR誌をはじめ，研究発表会，シンポジウム，その他学会活動に対する会員の要望を広く把握するため，有効に利用されてきた.

今年度は，第11期モニター（60年6月～60年11月）として28名の方々をお願いし，毎月アンケートに回答していただいた．また，研究発表会時に，モニター会議を開催し，各モニターから積極的かつ建設的な意見を集めることができた.

従来の方式によるモニター制度は，第11期をもって中止し，今後は，研究発表会，セミナー等の参加者に対するアンケートを中心に学会活動に対する会員の意見の把握を行なうことになった.

(4) ORセミナー

ORセミナー「多変量分析——質的データの分析と応用事例について」を昭和61年1月15日，16日の両日，林知己夫氏（放送大学）他2名を講師として開催した．参加者は52名であった.

5. 刊行物

(1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会機関誌「オペレーションズ・リサーチ」Vol. 30 No. 3 から Vol. 31 No. 2 まで12号（本文792ページ）を発行した．各号は特集を主とし，他にトップの視点，連載講座，事例研究，総合報告，研究レポート，企業のOR活動，研究室だより，フォーラム，書評，部会報告等を掲載した．特集のテーマは次のとおりであった.

Vol. 30 No. 3「ORとその周辺の手法」
No. 4「地理情報のOR」
No. 5「動的計画法」
No. 6「事例研究—59年秋季研究発表会より」
No. 7「待ち行列網のパッケージとシミュレーター」
No. 8「医学・医療のOR」
No. 9「DSS：デシジョンサポートシステム」
No. 10「建設・建築のOR」
No. 11「在庫管理のOR」
No. 12「イベントのOR」
Vol. 31 No. 1「組合せ最適化」
No. 2「地域計画策定支援システム」

(2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌(Jo-

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

urnal of the Operations Research Society of Japan) Vol. 28 No. 1 から No. 4 (358ページ) を発行した．本年度の投稿論文は51編（再投稿43編を含む）で掲載論文は23編であった．

(3) 研究発表会アブストラクト集

春・秋研究発表会のアブストラクト集を発行した．

(4) 会員名簿

ＯＡ委員会の協力を得て会員名簿を発行した．

6. 他学協会との交流

他学協会の開催した下記の講演会等に協賛，後援した．

1. 第28回自動制御連合講演会
2. 第６回数理計画シンポジウム
3. セミナー「最新画像処理技術とその動向」
4. 「情報理論とその応用研究会」第８回シンポジウム
5. 「ＦＡの最新技術とその動向」セミナー
6. 第16回「信頼性，保全性シンポジウム」
7. 第２回「ファジィシステムシンポジウム」
8. 「あいまい制御基礎講習会」
9. 第９回ビークル・オートメーションシンポジウム
10. 第15回制御理論シンポジウム
11. 第12回システムシンポジウム
12. 第29回自動制御連合講演会

7. 公的活動

(1) 日本学術会議

前年度に発足した日本学術会議経営工学研究連絡委員会(研連)の構成学会として，引続き委員４名を派遣し，その活動に協力した．

７月15日には，同研連並びに FMES(次項参照)の共催による第１回連合シンポジウムを日本学術会議講堂において開催し，139名の参加をみた．

(2) 経営工学関連学会協議会(FMES)

前年度に引続いて関連学会（日本経営工学会・日本品質管理学会）との協議会に委員４名を派遣し，日本学術会議に関連する諸問題の協議，文部省科学研究費特定領域の共同申請，連合シンポジウムの開催等の諸活動に協力した．

(3) 日本工学会

工学系60学協会の連合体である日本工学会の活動に協力し，同会事務研究委員会に委員１名を派遣した．

8. 国際協力

(1) IFORSが発行する IAOR(International Abstracts in Operations Research) 誌の編集発行に協力し，日本の文献抄録48編を送付するとともに，IAOR 誌の Vol. 30, No. 1～3, Vol. 31, No. 1～3 の国内頒布に協力した．

またEJORの編集に委員を送り，その編集発行に協力した．

(2) アジア太平洋地域の IFORS 加盟学会の連合組織 APORS (Association of Asian-Pacific Operational Research Societies) を結成した．1985年３月21日に国立公害研究所において第１回理事会を開催した．

事務局は日本ＯＲ学会事務局内に置き，事務局長には若山邦紘氏が就任した．Newsletter を３回発行した．

(3) IFORSを通じて世界各国のＯＲ学会と協力した．

支部活動報告

	北海道	東北	中部	関西	中国四国	九州
運営会議	支部総会 1回	支部総会 1回 運営委員会 2回 幹事会 1回	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 3回	支部総会 1回 運営委員会 1回	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 2回	支部総会 1回 運営委員会 2回
研究会	3回	3回	研究会 4回 研究発表会 1回 事例研究会 1回	経営科学文献情報検索 23回		4回
講演会		1回	定例講演会 1回	5回	4回	1回
出版			支部ニュース 8回 研究発表会アブストラスト 1回			支部ニュース 5回
その他		懇親会 1回	工場見学 1回	見学会 1回	研究懇談会 1回 対話型ＯＲ研究部会 研究会 8回 分科会 1回	春季研究発表会 1回

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

(4) 海外学会要人の来日

APORS の第1回理事会の際に，Prof. R. E. Johnston(オーストラリア)，徐　光輝教授(中国)，朴　在夏博士，姜　錫昊教授(韓国)，周　金麟教授(シンガポール)の各氏が来日し，当学会関係者と意見交換をし，友好を深めた．

9. 支部活動

各支部ごと次のように活動した．

10. 表　彰

(1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞

第14回日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞の選考を行ない，下記のとおり決定した．

- An Approximation of a Loss System with Two Heterogeneous Types of Calls
  Journal of the Operations Research Society of Japan Vol. 28, No. 2,
  川島幸之助(日本電信電話株式会社)

(2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞

第11回日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞の選考を行ない，下記のとおり決定した．

- 松田武彦(産業能率大学)

(3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞

第10回日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞の選考を行なったが，該当はなかった．

(4) 日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞

第6回日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞の選考，並びに第1回ソフトウエア部門賞の選考を行ない，下記のとおり決定した．

- 対話型多目的在庫最適化システムの開発
  オペレーションズ・リサーチ Vol. 30, No. 2,
  野村淳二，吉田幸男，栗尾　孝，竹中清介（松下電工株式会社)，西川禕一(京都大学)
- 地域別販売力評価システムの作成と量産品販売施策への適用
  Journal of the Operations Research Society of Japan Vol. 28, No. 2,
  勝村正鷹，田中快吉，森　文彦，佐藤　敬(株式会社日立製作所)

ソフトウエア部門

- ネットワーク計画法
  昭和60年度秋季研究発表会，古林　隆（埼玉大学)
- 教育用 BASIC・DYNAMO(第3版)
  昭和60年度秋季研究発表会，林　亜夫（筑波大学)

(5) 日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞

第3回日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞の選考を行ない，下記のとおり決定した．

- 幾何学的探索算法の研究
  枝廣正人(東京大学・修士論文)
- 地理的最適化と動的施設配置問題の研究
  武田　晋(東京大学・修士論文)
- サービスネットワークシステムにおける端末機制御
  潘　煥旭(東京工業大学・修士論文)
- 分散型データベースシステムにおける最適ファイル配置問題に関する研究
  山本亮三(埼玉大学・修士論文)

11. 受賞助成金推薦

昭和60年度鹿島学術振興財団の研究助成候補者として下記のとおり推薦した．

首都圏の将来ビジョンの構築と都市環境整備の優先順位の評価に関する総合システム的研究
研究代表者　安田八十五(筑波大学)

II 処務の概要

1. 役員に関する事項

理　事	定数：	12人から16人
	任期：	2年
非常勤	現在：	16人
監　事	定数：	2人
	任期：	2年
非常勤	現在：	2人

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

理事・監事の役職	氏名	常勤非常勤の別	就任 就任年月日	就任 登記年月日	担当職務	職名
理事(会長)	近藤 次郎	非常勤	59. 4.26	59. 7.13	会務の総理	日本学術会議会長
〃 (副会長)	伊理 正夫	〃	〃	〃	企画調整	東京大学教授
〃 (〃)	海辺不一雄	〃	60. 4.26	60. 7. 8	〃	東芝リサーチコンサルティング㈱ フェロー
〃 (〃)	小笠原 暁	〃	〃	〃	〃	芦屋大学教授
〃 (庶務)	柳澤 滋	〃	59. 4.26	59. 7.13	庶務	沖電気工業㈱生産システム部部長
〃 (〃)	梅沢 豊	〃	60. 4.26	60. 7. 8	〃	東京大学助教授
〃 (国際)	伏見 正則	〃	〃	〃	国際	東京大学助教授
〃 (研究普及)	高井 英造	〃	59. 4.26	59. 7.13	研究普及	三菱石油㈱企画二部次長
〃 (〃)	森 雅夫	〃	60. 4.26	60. 7. 8	〃	東京工業大学助教授
〃 (編集)	阿部 俊一	〃	59. 4.26	59. 7.13	編集	青山学院大学教授
〃 (〃)	柳井 浩	〃	60. 4.26	60. 7. 8	〃	慶応義塾大学教授
〃 (会計)	森下 啓造	〃	59. 4.26	59. 7.13	会計	日本アイ・ビー・エム㈱社誌編纂室
〃 (無任所)	児玉 正憲	〃	〃	〃	無任所	九州大学教授
〃 (〃)	富田 英雄	〃	〃	〃	〃	三井銀行ソフトウエアサービス㈱
〃 (〃)	山本 正明	〃	〃	〃	〃	法政大学教授
〃 (〃)	高橋 幸雄	〃	60. 4.26	60. 7. 8	〃	東北大学教授
監事	島田 俊郎	〃	59. 4.26	59. 7.13	民法59条	明治大学教授
〃	真壁 肇	〃	60. 4.26	60. 7. 8	〃	東京工業大学教授

2. 職員に関する事項

区分	専任者 有給者 人数	専任者 有給者 左の人数の基本給年度末月額	備考
事務職員	2人	441,500(円)	
計	2人	441,500	

3. 会議に関する事項

(1) 通常総会

開催年月日	議事事項	結果
60. 4.26	1. 昭和59年度事業報告の件	承認
	2. 昭和59年度収支決算報告の件	〃
	3. 監査報告の件	〃
	4. 昭和60年度事業計画の件	〃
	5. 昭和60年度予算の件	〃
	6. 昭和60年度役員選任の件	〃
	7. 名誉会員推薦の件	〃
	8. 昭和59年度学会賞の発表と表彰	
	9. 新フェロー紹介	

(2) 理事会

開催年月日	議事事項	結果
60. 5.22	1. 通常総会議事録の件	承認
	2. 評議員会・理事会議事録の件	〃
	3. 昭和60年度各委員会委員・幹事推薦の件	〃
	4. FMES委員4名推薦の件	〃
	5. 第13期研連委員4名継続の件	〃
	6. 昭和61年度春季研究発表会日程の件	〃
	7. 支部総会報告（北海道・中部・関西・九州）	
	8. 今年度活動方針等懇談	
60. 7.26	1. 昭和60年度春季研究発表会終了報告	承認
	2. 昭和60年度秋季研究発表会予算案並びにプログラムの件	〃
	3. 第14回シンポジウムのプログラム・予算の件	〃
	4. 科研費申請の件	〃
	5. 特別講演会の件	〃
	6. 第6回ORセミナー，定例講演会の件	〃
	7. 第11期モニター委嘱並びにアンケートの件	〃
	8. 第1四半期収支計算報告の件	〃
	9. 会員増強委員会報告の件	〃
	10. APORS定款並びに第1回会議議事録の件	〃

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会. 無断複写・複製・転載を禁ず.

開催年月日	議事事項	結果
60. 9.20	1. 昭和60年度上半期収支計算報告の件	承認
	2. 秋季研究発表会並びにシンポジウムの準備状況報告の件	了承
	3. 第15回シンポジウムの件 テーマ「離散システムとその応用」の61年3月開催について	承認
	4. 昭和61年度春季研究発表会の件	〃
	5. モニターアンケート並びにモニター制度の件	〃
	6. FMES シンポジウム報告の件	〃
	7. 第3回学生論文賞の選考結果について	〃
	8. 国際関係APORS Newsletterの件	〃
60.11.25	1. 支部長会議開催報告の件	了承
	2. FMES関係学会員の相互入会の特典について	承認
	3. 会員名簿発行の件	〃
	4. 第14回シンポジウム終了報告の件	〃
	5. 昭和60年度秋季研究発表会終了報告の件	〃
	6. 昭和61年度春季研究発表会の件	〃
	7. 昭和61年度秋季研究発表会日程の件 61年10月1～3日 東京大学経済学部	〃
	8. 定例講演会・特別講演会終了報告の件	〃
	9. 1989年 TIMS 日本開催の件	〃
	10. 会長候補者選考委員会設置の件	〃
	11. 学術会議/FMES関係報告の件	〃
	12. OR誌表紙公募の件	〃
	13. 昭和61年度事業計画・予算案作成の件	〃
	14. 昭和61年度通常総会日時の件	〃
61. 1.27	1. 昭和59, 60年度会費未納者（除名対象者について）	承認
	2. 昭和60年度第3四半期収支計算報告の件	〃
	3. 研究部会の新設，継続申請について	〃
	4. 第15回シンポジウム開催の件	〃
	5. 国際経済経営会議の件	〃
	6. 論文誌関係報告	了承
	7. FMES/研連関係報告	承認
61. 3.24	1. OR学会賞推薦の件	承認
	2. フェロー推薦の件	〃
	3. 昭和60年度研究部会，グループ報告	〃
	4. 昭和61年度春季研究発表会（仙台）準備状況について	了承
	5. シンポジウムの予定について	〃
	6. 第2回 FMES 連合シンポジウム(7/11)の件 テーマ：今後の経営技法—開発と活用—	承認
	7. ORセミナーの報告	〃
	8. 特別講演会開催の件 (4/30 14:00～15:00) テーマ：LP新解法とシンプレックス法の計算比較 講師：刀根 薫(埼玉大学) 小島政和(東工大)	〃
	9. 論文誌についての報告	了承
	10. 30周年記念事業委員会の件	承認
	11. 昭和61年度役員・評議員候補者推薦の件	〃
	12. 国際関係報告の件	了承
	13. 昭和61年度事業計画案の件	承認
	14. 昭和61年度予算案の件	〃
61. 4.21	1. 総会議案の件	
	(1) 昭和60年度事業報告並びに決算報告の件	承認
	(2) 監査報告の件	〃
	(3) 昭和61年度役員の件	〃
	(4) 昭和61年度評議員の件	〃

(3) 評議員会

61. 4.21	1. 総会議案の件	
	(1) 昭和60年度事業報告の件	承認
	(2) 昭和60年度収支決算報告の件	〃
	(3) 監査報告の件	〃
	(4) 昭和61年度事業計画案の件	〃
	(5) 昭和61年度予算案の件	〃
	(6) 昭和61年度役員選任の件	〃
	(7) 昭和61年度評議員選任の件	〃

(4) 支部長会議

支部長会議は5月(九州)と11月(東京)の2回開催し，OR学会の諸問題について意見を交換し，本部と支部の意見調整を行った．

(5) 委員会・幹事会等

(1) 常設委員会

編集委員会	17回
IAOR 委員会	4回
国際委員会	5回
研究普及委員会	23回
表彰委員会	8回

(2) その他の委員会・幹事会

フェロー会議	1回
主査会議	1回

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

支部長会議	2回
モニター会議	2回
庶務幹事会	6回
経営工学関連学会協議会(FMES)	5回
ＯＡ化委員会	2回
広告委員会	4回
会員増強委員会	4回
会計幹事会	1回
会長候補者選考委員会	2回

4. 許可・認可・承認・証明に関する事項

該当なし

5. 契約に関する事項

該当なし

6. 寄附金に関する事項

該当なし

7. 主務官庁の指示に関する事項

該当なし

8. 会員状況

		名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員	計
1985年2月末日		6	2,129	138	104	2,377
1985年度 入会			+144	+ 56	+ 11	+211
1985年度 移行	正→名誉	+ 1	− 1			0
	学 → 正		+ 44	− 44		0
1985年度 退会			− 93	− 2	− 12	−107
1985年度 除名			− 63	− 7		− 70
復活			+ 2			+ 2
1986年2月末日		7	2,162	141	103	2,413

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員
本部	6	1,288	97	64
北海道		63	2	3
東北		61	2	5
中部	1	203	7	10
関西		317	22	10
中国四国		130	4	5
九州		100	7	6
合計	7	2,162	141	103

昭和60年度収支決算報告書

貸借対照表

昭和61年2月28日

1. 資産の部

勘定科目 大科目	勘定科目 中科目	金額	
流動資産			
	現金預金	54,673,105	
	有価証券	8,000,000	
	未収金	2,858,150	
	前払金	352,233	
流動資産合計			65,883,488
有形固定資産		0	
有形固定資産合計			0
資産合計			65,883,488

2. 負債の部

勘定科目 大科目	勘定科目 中科目	金額	
流動負債			
	預り金	207,033	
	前受金	22,925,023	
流動負債合計			23,132,056
固定負債			
	退職給与引当金	9,402,508	
	敷金引当金	1,821,640	
	国際協力引当金	4,317,106	
	記念事業引当金	2,500,000	
	表彰事業引当金	730,000	
	別途引当金	3,029,466	
固定負債合計			21,800,720
負債合計			44,932,776

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会. 無断複写・複製・転載を禁ず.

3. 正味財産の部

勘定科目 大科目	勘定科目 中科目	金額	
基本金	基本金		5,000,000
剰余金	次期繰越収支差額	15,950,712	
	(うち当期増加額)	(1,221,824)	
剰余金合計			15,950,712
正味財産合計			20,950,712
負債及び正味財産合計			65,883,488

財産目録

昭和61年2月28日

	金額	
(資産の部)		
I 流動資産		
1. 現金預金		
(1) 現金		
現金手許有高	255,331	
(2) 振替貯金		
東京振替貯金局	3,594,451	
(3) 当座預金		
第一勧業銀行八重洲口支店	735,938	
住友銀行白山支店	24,989	
(4) 普通預金		
第一勧業銀行八重洲口支店	3,603,895	
住友銀行白山支店	4,808,501	
(5) 定期預金		
第一勧業銀行八重洲口支店	20,000,000	
住友銀行白山支店	21,650,000	
2. 有価証券(利付債券)		
日本長期信用銀行本店	8,000,000	
3. 未収金		
60年度会費外	2,858,150	
4. 前払金		
61年春研究発表会会場費外	352,233	65,883,488
II 有形固定資産		0
資産合計		65,883,488

	金額	
(負債の部)		
I 流動負債		
1. 預り金		
職員に対する源泉所得税外	207,033	
2. 前受金		
61年度会費前受外	22,925,023	23,132,056
II 固定負債		
1. 退職給与引当金	9,402,508	
2. 敷金引当金	1,821,640	
3. 国際協力引当金	4,317,106	
4. 記念事業引当金	2,500,000	
5. 表彰事業引当金	730,000	
6. 別途引当金	3,029,466	21,800,720
負債合計		44,932,776
正味財産		20,950,712

(注) 基本財産たる資産

定期預金(第一勧業銀行八重洲口支店)

5,000,000

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会. 無断複写・複製・転載を禁ず.

収 支 計 算 書

（昭和60年3月1日から昭和61年2月28日まで）

収支計算の部

1） 収入の部

勘定科目 大科目	中科目	小科目	予算額	決算額	差異	備考
基本財産運用収入						
	基本財産利息収入		275,000	275,000	0	
事業収入						
	会誌頒布収入		10,485,000	10,369,192	115,808	
	研究発表会収入		3,780,000	3,783,000	△ 3,000	
	講演会収入		390,000	479,000	△ 89,000	
	講習会収入		1,000,000	1,290,000	△290,000	
	資料等頒布収入		400,000	459,400	△ 59,400	
	IAOR収入		490,000	448,000	42,000	
	EJOR収入		119,600	148,000	△ 28,400	
入会金収入						
	正会員入会金収入		240,000	172,800	67,200	
	学生会員入会金収入		66,000	33,600	32,400	
会費収入						
	正会員会費収入		27,600,000	26,980,956	619,044	
	学生会員会費収入		1,000,000	745,000	255,000	
	賛助会員会費収入		12,825,000	12,207,500	617,500	
雑収入						
	広告収入		3,100,000	4,391,796	△1,291,796	
	受取利息		2,470,000	2,448,019	21,981	
	名簿収入		500,000	963,000	△ 463,000	
	雑収入		100,000	512,715	△ 412,715	
引当金取崩収入						
	国際協力引当金取崩収入		500,000	500,000	0	
	名簿作成引当金取崩収入		1,000,000	1,000,000	0	
	退職給与引当金取崩収入		146,520	179,880	△ 33,360	
	当期収入合計		66,487,120	67,386,858	△ 899,738	
前期繰越収支差額			14,728,888	14,728,888	0	
	収入合計		81,216,008	82,115,746	△ 899,738	

2） 支出の部

勘定科目 大科目	中科目	小科目	予算額	決算額	差異	備考
管理費						
	家賃		2,570,000	2,515,000	55,000	
	共益費		916,800	916,800	0	
	什器備品費		50,000	44,290	5,710	
	会議費		880,000	698,881	181,119	
	旅費交通費		1,667,000	1,221,290	445,710	
	通信費		1,200,000	1,486,263	△ 286,263	

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

勘定科目 大科目	中科目	小科目	予算額	決算額	差異	備考
	印刷費		450,000	192,690	257,310	
	消耗品費		700,000	729,404	△ 29,404	
	OA化準備費		400,000	588,700	△ 188,700	
	修繕費		20,000	0	20,000	
	給料手当		8,940,000	7,392,556	1,547,444	
	福利厚生費		1,370,000	1,214,544	155,456	
	臨時雇賃金		100,000	780,050	△ 680,050	
	保険料		79,000	79,000	0	
	負担金		50,000	42,500	7,500	
	支払手数料		100,000	93,530	6,470	
	租税公課		22,000	53,610	△ 31,610	
	退職給与引当金繰入額		1,000,000	1,000,000	0	
	雑費		150,000	540,695	△ 390,695	
	退職金		146,520	179,880	△ 33,360	
	会費徴収不能		0	3,111,720	△3,111,720	
事業費						
	研究発表会					
		開催費	2,050,000	2,319,495	△ 269,495	
		印刷費	990,000	864,000	126,000	
	印刷製本費					
		機関誌	13,200,000	14,137,020	△ 937,020	
		論文誌	2,000,000	1,977,725	22,275	
		報文集	200,000	0	200,000	
		印刷費	100,000	25,490	74,510	
		名簿刊行費	1,000,000	650,600	349,400	
	国際協力費					
		IFORS会費	410,000	291,380	118,620	
		IAOR購入費	360,000	764,419	△ 404,419	
		EJOR購入費	98,000	166,915	△ 68,915	
		APORS関係費	600,000	598,725	1,275	
	研究活動費					
		講演会開催費	615,000	484,744	130,256	
		講習会開催費	728,000	606,175	121,825	
		研究部会費	750,000	750,000	0	
		支部費	2,309,000	2,247,000	62,000	
	表彰事業費		624,100	691,021	△ 66,921	
	会議費		824,000	505,560	318,440	
	旅費交通費		1,106,000	770,150	335,850	
	通信運搬費		3,460,000	3,377,304	82,696	
	諸謝金		1,760,000	1,416,500	343,500	
	給料手当		8,940,000	7,392,555	1,547,445	
	編集校正費		1,720,000	1,716,000	4,000	
	消耗品費		700,000	704,908	△ 4,908	
	FMES関係費		300,000	89,375	210,625	
	表彰事業引当金繰入額		130,000	130,000	0	
	記念事業引当金繰入額		500,000	500,000	0	
	雑費		100,000	106,570	△ 6,570	

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会. 無断複写・複製・転載を禁ず.

勘定科目			予算額	決算額	差異	備考
大科目	中科目	小科目				
当期支出合計			66,385,420	66,165,034	220,386	
次期繰越収支差額			14,830,588	15,950,712	△1,120,124	
支出合計			81,216,008	82,115,746	△ 899,738	

昭和61年度事業計画

長期計画の第4年度として，その完遂に向け一層の努力を重ねるとともに，対外的には，国際交流を深め，国内関連学会との連係を緊密にして，学会活動の振興をはかる．あわせて，会員を増強し，学会事務の機械化を推進して活動基盤を整備する．

1. 研究発表会，シンポジウム

(1) 研究発表会は春秋2回開催し，春季は5月21日，22日仙台市民会館（東京）において，秋季は10月2日，3日東京大学において開催する．特別テーマは，それぞれ「社会の情報化とOR」「R＆DとOR」とする．春季見学会は5月23日に研究発表会とあわせて行なう．

(2) シンポジウムは3回開催する．第1回は3月24日，早稲田大学で開催し，テーマは「離散システムとその応用」とする．第2回は5月20日，仙台市民会館において開催し，テーマは「シミュレーション」とする．第3回は10月1日，東京大学において開催し，テーマは「日本的ORの展望(仮題)」とする．

2. 研究部会・グループ活動

(1) 研究部会活動としては，「決定モデルとその応用」，「交通問題」，「政策科学」，「システム最適化」，「政策科学(関西)」，「確率モデルとその応用」，「新社会システム」，「地域政策」，「トップ業務の創造的エキスパートシステムの設計」の9部会と，常設の「待ち行列」，「数理計画」，「OR/MSとシステムマネジメント」の3部会，計12部会が活動を継続する．また，新たに「動的計画法：主査小田中敏男（都立科学技術大学)」，「最適化とその応用：主査児玉正憲（九州大学)」の2部会が，活動を開始する．

(2) 研究グループ活動としては，「第三世界とマイコン」「社会経済分析」「日本的システム科学」が活動を継続する．

3. 普及活動

第7回ORセミナーを企画実施する．定例講演会，学会活動の広報等のOR普及活動に努める．

4. 刊行物

(1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」を12号，論文誌「Journal of the Operations Research Society of Japan」（日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌）を4号発行する．

(2) 研究発表会アブストラクト集を2回発行する．

(3) シンポジウムの予稿集を3回発行する．

5. 他学協会との連係

(1) 前年度に引続き，日本学術会議，経営工学研究連絡委員会に委員を，また経営工学関連学会協議会（FMES）に代議員を派遣し，それらの活動に参画する．

(2) 日本学術会議，経営工学研究連絡委員会，(社)日本経営工学会，および(社)日本品質管理学会との共催により，第2回連合シンポジウム（テーマ：これからの経営技法—開発と活用について)を7月11日，日本学術会議講堂において開催する．

(3) (社)日本工学会，その他関連学協会との交流を積極的に進める．

6. 長期計画の推進

昭和57年度に25周年を契機として策定された長期計画（5年)にもとづく諸事業を継続推進する．

(1) 会員増強に努める．

(2) 学会事務のOA化を推進する．

(3) 第2次長期計画の策定に着手する．

7. 創立30周年記念事業

昭和62年に創立30周年を迎えるので，30周年記念事業委員会において，その事業の準備を行なう．

8. 国際協力

(1) IFORS(International Federation of Operational Research Societies)，APORS(Association of Asian-Pacific Operational Research Societies)を通じて各国のOR学会と協力する．

(2) 7月21日～23日に，オーストラリア，ブリスベーン市で開催されるAPORSの第2回理事会に代表

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

を派遣する．

(3) 国内のＯＲ文献抄録の作成を通じ IAOR(International Abstracts in Operations Research) 誌の編集発行に協力するとともに，IAOR誌の国内頒布を行なう．また EJOR(European Journal of Operational Research) および APJOR (Asian-Pacific Journal of Operational Research) の編集に協力する．

9. 支部活動

各支部において研究会，講演会，見学会等の活動を行なう．

10. 表 彰

文献賞，実施賞，普及賞，事例研究奨励賞（ソフトウエア部門賞を含む）および学生論文賞の選考を行なう．

11. 通常総会

通常総会は４月30日東京において行なう．

昭和61年度予算書

収入支出の予算　　（昭和61年３月１日から昭和62年２月28日まで）

1) 収入の部

勘定科目 大科目	中科目	小科目	予算額	前年度予算額	増減（△）	備考
基本財産運用収入						
	基本財産利息収入		275,000	275,000	0	
入会金収入						
	正会員入会金収入		240,000	240,000	0	
	学生会員入会金収入		60,000	66,000	△ 6,000	
会費収入						
	正会員会費収入		27,600,000	27,600,000	0	
	学生会員会費収入		1,000,000	1,000,000	0	
	賛助会員会費収入		12,350,000	12,825,000	△ 475,000	
事業収入						
	会誌頒布収入		10,324,800	10,485,600	△ 160,800	
	研究発表会収入		3,340,000	3,780,000	△ 440,000	
	講演会収入		540,000	390,000	150,000	
	講習会収入		1,250,000	1,000,000	250,000	
	資料等頒布収入		400,000	400,000	0	
	ＩＡＯＲ収入		490,000	490,000	0	
	ＥＪＯＲ収入		160,000	119,000	41,000	
雑収入						
	広告収入		3,860,000	3,100,000	760,000	
	受取利息		2,700,000	2,470,000	230,000	
	名簿収入		500,000	500,000	0	
	雑収入		200,000	100,000	100,000	
	国際協力引当金取崩収入		500,000	500,000	0	
	名簿作成引当金取崩収入		0	1,000,000	△1,000,000	
	退職給与引当金取崩収入		0	146,520	△ 146,520	
	記念事業引当金取崩収入		300,000	0	300,000	
	当期収入合計		66,089,800	66,487,120	△ 397,320	
前期繰越収支差額			15,950,712	14,728,888	1,221,824	
	収入合計		82,040,512	81,216,008	824,504	

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

2) 支出の部

勘定科目 大科目	中科目	小科目	予算額	前年度予算額	増減(△)	備考
管理費						
	家賃		2,530,000	2,570,000	△ 40,000	
	共益費		916,800	916,800	0	
	什器備品費		80,000	50,000	30,000	
	会議費		880,000	880,000	0	
	旅費交通費		1,664,000	1,667,000	△ 3,000	
	通信費		1,226,000	1,200,000	26,000	
	印刷費		450,000	450,000	0	
	消耗品費		700,000	700,000	0	
	OA化準備費		400,000	400,000	0	
	修繕費		20,000	20,000	0	
	給料手当		9,700,000	8,940,000	760,000	
	福利厚生費		1,784,000	1,370,000	414,000	
	臨時雇賃金		700,000	100,000	600,000	
	保険料		79,000	79,000	0	
	負担金		50,000	50,000	0	
	支払手数料		100,000	100,000	0	
	租税公課		60,000	22,000	38,000	
	退職給与引当金繰入額		500,000	1,000,000	△ 500,000	
	雑費		150,000	150,000	0	
	退職金		0	146,520	△ 146,520	
事業費						
	研究発表会費					
		開催費	2,050,000	2,050,000	0	
		印刷費	990,000	990,000	0	
	印刷製本費					
		機関誌	13,800,000	13,200,000	600,000	
		論文誌	2,000,000	2,000,000	0	
		報文集	0	200,000	△ 200,000	
		印刷費	100,000	100,000	0	
		名簿刊行費	0	1,000,000	△1,000,000	
	国際協力費					
		IFORS会費	410,000	410,000	0	
		IAOR購入費	490,000	360,000	130,000	
		EJOR購入費	159,360	98,000	61,360	
	研究活動費					
		講演会開催費	805,000	615,000	190,000	
		講習会開催費	728,000	728,000	0	
		研究部会費	700,000	750,000	△ 50,000	
		支部費	2,309,000	2,309,000	0	
	表彰事業費		336,000	624,100	△ 288,100	
	会議費		784,000	824,000	△ 40,000	
	旅費交通費		1,153,000	1,106,000	47,000	
	通信運搬費		3,460,000	3,460,000	0	
	諸謝金		1,760,000	1,760,000	0	
	給料手当		9,700,000	8,940,000	760,000	

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会. 無断複写・複製・転載を禁ず.

勘定科目			予算額	前年度予算額	増減（△）	備考
大科目	中科目	小科目				
	編集校正費		1,720,000	1,720,000	0	
	消耗品費		700,000	700,000	0	
	30周年記念事業準備費		300,000	0	300,000	
	ＦＭＥＳ関係費		100,000	300,000	△ 200,000	
	表彰事業引当金繰入額		130,000	130,000	0	
	記念事業引当金繰入額		500,000	500,000	0	
	雑費		100,000	100,000	0	
予備費			0	0	0	
	当期支出合計		67,874,160	66,385,420	1,488,740	
次期繰越収支差額			14,166,352	14,830,588	△ 664,236	
	支出合計		82,040,512	81,216,008	824,504	

（なお，新役員，評議員につきましてはp.323に掲載いたしました）

表紙のデザインを公募します

「オペレーションズ・リサーチ」誌の表紙のデザインを公募します．——現在の表紙は故奥平耕平先生によるもので，毎年色をかえながら読者の皆様に親しまれてまいりましたが，すでに９年目になります．1987年には本学会の創立30周年を迎えることになりますので，それを機会に表紙のデザインをかえて気分を一新したいと思います．奮ってご応募ください．

応募資格：本学会正会員および学生会員

締　　切：1986年９月１日（学会事務局宛）
発　　表：本誌・誌上
賞　　金：７万円（30周年祝賀会の際授与）

• 大きさＢ５判　• 簡略化した目次が入れられること　• ２色ずり，主たる色は変更できること　• 使用に当っては技術上の修正をすることがあります．応募作品は返却いたしません．

（編集委員会）

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．